目次

古文
第１講　共通テスト第１日程 第３問……p1
第２講　共通テスト第２日程 第３問……p10
漢文
第３講　共通テスト第１日程 第４問……p19
共通テスト第２日程 第４問……p29

第１講　共通テスト第１日程 第３問

第３問

次の文章は、『栄花物語』の一節である。藤原長家（本文では「中納言殿」）の妻が亡くなり、親族らが亡骸（なきがら）をゆかりの寺（法住寺（ほうじゆうじ））に移す場面から始まっている。これを読んで、後の問い（**問１〜５**）に答えよ。（配点　50）

大北の方も、この殿(注1)ばらも、またおしかへし臥（ふ）しまろばせたまふ。これをだに悲しくゆゆしきことにいはでは、また何ごとをかはと見えたり。さて御車(注2)の後（しり）に、大(注3)納言殿、中納言殿、さるべき人々は歩ませたまふ。いへばおろかにて、(ア)えまねびやらず。北(注4)の方の御車や、女房たちの車などひき続けたり。御供の人々など数知らず多かり。法住寺には、常の御渡りにも似ぬ御車などのさまに、僧都（そうづ）(注5)の君、御目もくれて、え見たてまつりたまはず。さて御車かきおろして、つぎて人々おりぬ。

さてこの御忌（いみ）のほどは、誰（たれ）もそこにおはしますべきなりけり。山の方をながめやらせたまふにつけても、わざとならず色々にすこしうつろひたり。鹿の鳴く音（ね）に御目も

メモ欄

さめて、今すこし心細さまさりたまふ。宮々(注6)よりも思(おぼ)し慰むべき御消息(せうそこ)たびたびあれど、ただ今はただ夢を見たらんやうにのみ思されて過ぐしたまふ。月のいみじう明(あか)きにも、思し残させたまふことなし。内裏(うち)わたりの女房も、さまざま御消息聞こゆれども、よろしきほどは、**A**<u>「今みづから」とばかり書かせたまふ。</u>進内侍(じんのないし)と聞こゆる人、聞こえたり。

　　契りけん千代は涙の水底(みなそこ)に枕ばかりや浮きて見ゆらん

中納言殿の御返し、

　　起き臥しの契りはたえて尽きせねば枕を浮くる涙なりけり

また東宮の若宮の御乳母(めのと)の小弁(こべん)、

X　悲しさをかつは思ひも慰めよ誰もつひにはとまるべき世か

御返し、

Y　慰むる方しなければ世の中の常なきことも知られざりけり

かやうに思しのたまはせても、いでや、もののおぼゆるにこそあめれ、まして月ごろ、

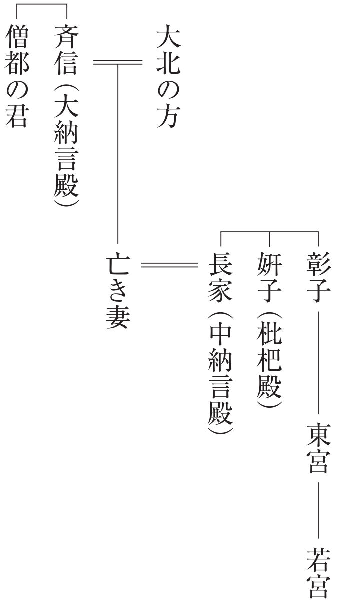
メモ欄

年ごろにもならば、思ひ忘るるやうもやあらんと、われながら心憂く思さる。何ごとにもいかでかくと(イ)めやすくおはせしものを、顔かたちよりはじめ、心ざま、手うち書き、絵などの心に入り、さいつころまで御心に入りて、うつ伏しうつ伏して描(か)きたまひしものを、この夏の絵を、枇杷殿(びはどの)にもてまゐりたりしかば、いみじう興じめでさせたまひて、納めたまひし、Bよくぞもてまゐりにけるなど、思し残すことなきままに、よろづにつけて恋しくのみ思ひ出できこえさせたまふ。年ごろ書き集(つ)めさせたまひける絵物語など、(注7)みな焼けにし後(のち)、去年(こぞ)、今年のほどにし集めさせたまへるもいみじう多かりし、(ウ)里に出でなば、とり出でつつ見て慰めむと思されけり。

（注）
1　この殿ばら ―― 故人と縁故のあった人々。
2　御車 ―― 亡骸を運ぶ車。
3　大納言殿 ―― 藤原斉信。長家の妻の父。
4　北の方 ―― 「大北の方」と同一人物。
5　僧都の君 ―― 斉信の弟で、法住寺の僧。
6　宮々 ―― 長家の姉たち。彰子や妍子（枇杷殿）ら。
7　みな焼けにし後 ―― 数年前の火事ですべて燃えてしまった後。

メモ欄

〈人物関係図〉



メモ欄

問１　傍線部(ア)〜(ウ)の解釈として最も適当なものを、次の各群の①〜⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は［1］〜［3］。

(ア)　えまねびやらず　［1］

① 信じてあげることができない
② かつて経験したことがない
③ とても真似（まね）のしようがない
④ 表現しつくすことはできない
⑤ 決して忘れることはできない

(イ)　めやすくおはせしものを　［2］

① すばらしい人柄だったのになあ
② すこやかに過ごしていらしたのになあ
③ 感じのよい人でいらっしゃったのになあ
④ 見た目のすぐれた人であったのになあ
⑤ 上手におできになったのになあ

(ウ)　里に出でなば　［3］

① 自邸に戻ったときには
② 旧都に引っ越した日には
③ 山里に隠棲（いんせい）するつもりなので
④ 妻の実家から立ち去るので
⑤ 故郷に帰るとすぐに

問２　傍線部Ａ「『今みづから』とばかり書かせたまふ」とあるが、長家がそのような対応をしたのはなぜか。その理由の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **4** 。

① 並一通りの関わりしかない人からのおくやみの手紙に対してまで、丁寧な返事をする心の余裕がなかったから。
② 妻と仲のよかった女房たちには、この悲しみが自然と薄れるまでは返事を待ってほしいと伝えたかったから。
③ 心のこもったおくやみの手紙に対しては、表現を十分練って返事をする必要があり、少し待ってほしかったから。
④ 見舞客の対応で忙しかったが、いくらか時間ができた時には、ほんの一言ならば返事を書くことができたから。
⑤ 大切な相手からのおくやみの手紙に対しては、すぐに自らお礼の挨拶にうかがわなければならないと考えたから。

問３　傍線部Ｂ「よくぞもてまゐりにけるなど、思し残すことなきままに、よろづにつけて恋しくのみ思ひ出できこえさせたまふ」の語句や表現に関する説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は［５］。

①「よくぞ……ける」は、妻の描いた絵を枇杷殿へ献上していたことを振り返って、そうしておいてよかったと、長家がしみじみと感じていることを表している。

②「思し残すことなき」は、妻とともに過ごした日々に後悔はないという長家の気持ちを表している。

③「ままに」は「それでもやはり」という意味で、長家が妻の死を受け入れたつもりでも、なお悲しみを払拭することができずに苦悩していることを表している。

④「よろづにつけて」は、妻の描いた絵物語のすべてが焼失してしまったことに対する長家の悲しみを強調している。

⑤「思ひ出できこえさせたまふ」の「させ」は使役の意味で、ともに亡き妻のことを懐かしんでほしいと、長家が枇杷殿に強く訴えていることを表している。

問４　この文章の登場人物についての説明として最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。解答番号は【６】。

① 親族たちが悲しみのあまりに取り乱している中で、「大北の方」だけは冷静さを保って人々に指示を与えていた。
② 「僧都の君」は涙があふれて長家の妻の亡骸を直視できないほどであったが、気丈に振る舞い亡骸を車から降ろした。
③ 長家は秋の終わりの寂しい風景を目にするたびに、妻を亡くしたことが夢であってくれればよいと思っていた。
④ 「進内侍」は長家の妻が亡くなったことを深く悲しみ、自分も枕が浮くほど涙を流していると嘆く歌を贈った。
⑤ 長家の亡き妻は容貌もすばらしく、字が上手なことに加え、絵にもたいそう関心が深く生前は熱心に描いていた。

問５　次に示す【文章】を読み、その内容を踏まえて、Ｘ・Ｙ・Ｚの三首の和歌についての説明として適当なものを、後の①～⑥のうちから二つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。解答番号は［７］・［８］。

> **【文章】**
> 『栄花物語』の和歌Ｘと同じ歌は、『千載和歌集』にも記されている。妻を失って悲しむ長家のもとへ届けられたという状況も同一である。しかし、『千載和歌集』では、それに対する長家の返歌は、
>
> Ｚ　誰もみなとまるべきにはあらねども後(おく)るるほどはなほぞ悲しき
>
> となっており、同じ和歌Ｘに対する返歌の表現や内容が、『千載和歌集』の和歌Ｚと『栄花物語』の和歌Ｙとでは異なる。『栄花物語』では、和歌Ｘ・Ｙのやりとりを経て、長家が内省を深めてゆく様子が描かれている。

① 和歌Ｘは、妻を失った長家の悲しみを深くは理解していない、ありきたりなおくやみの歌であり、「悲しみをきっぱり忘れなさい」と安易に言ってしまっている部分に、その誠意のなさが露呈してしまっている。

② 和歌Ｘは、世の中は無常で誰しも永遠に生きることはできないということを詠んでいるのに対して、和歌Ｚはその内容をあえて肯定することで、妻に先立たれてしまった悲しみをなんとか慰めようとしている。

③ 和歌Ｘが、誰でもいつかは必ず死ぬ身なのだからと言って長家を慰めようとしているのに対して、和歌Ｚはひとまずそれに同意を示したうえで、それでも妻を亡くした今は悲しくてならないと訴えている。

④ 和歌Ｚが、「誰も」「とまるべき」「悲し」など和歌Ｘと同じ言葉を用いることで、悲しみを癒(い)やしてくれたことへの感謝を表現しているのに対して、和歌Ｙはそれらを用いないことで、和歌Ｘの励ましを拒む姿勢を表明している。

⑤ 和歌Ｙは、長家を励まそうとした和歌Ｘに対して私の心を癒やすことのできる人などいないと反発した歌であり、長家が他人の干渉をわずらわしく思い、亡き妻との思い出の世界に閉じこもってゆくという文脈につながっている。

⑥ 和歌Ｙは、世の無常のことなど今は考えられないと詠んだ歌だが、そう詠んだことでかえってこの世の無常を意識してしまった長家が、いつかは妻への思いも薄れてゆくのではないかと恐れ、妻を深く追慕してゆく契機となっている。

■ 共通テスト第 1 日程

問題番号（配点）	設　問	解答番号	正　解	配　点
第 3 問（50）	1	1	4	5
		2	3	5
		3	1	5
	2	4	1	7
	3	5	1	6
	4	6	5	6
	5	7 － 8	3 － 6	16（各8）

（注）
－（ハイフン）でつながれた正解は，順序を問わない。